

此兩様之上り屋敷當分明地代當時貳百六拾七兩納り可申候得共段々貸積り候而四百七拾兩程納り申候積ニ御座候併病人數多く相成候は、此地代金計りに而は賄金不足可仕候間其節御藏より受取候様可仕候、

一御扶持方は御藏より請取味噌鹽薪炭等御買上ニ仕候而は藏物置等も無御座候而は難成候間一貳入札爲致町人請負ニ可申付候、

〔公事餘録〕一施藥院ニ而致死去候は、無縁之者は回向院下屋敷へ差遣可申候此入用病死人壹人ニ付四百文程づ、ニ而は相濟可申候右二ヶ條御入用高先達而は難積り御座候是は與力共江少々、金子渡置勘定仕候様ニ致可然奉存候、

右は差當候儀計り先奉伺候此外洩候義も御座候は、追て相伺可申上候以上、

寅七月

中山出雲守

大岡越前守

〔天明撰要類集養生所〕寛政元酉年十月三日京極備前守殿江御直ニ上ル、

小石川養生所附御醫師用候藥種之儀ニ付相調申上候書付、

初鹿野河内守

小石川養生所附御醫師用候藥種御入用ニ而被下置候哉御役料之内ニ而辨じ候哉相糺可申上旨被仰渡候ニ付相調候處左之通ニ御座候、

一 小石川養生所附御醫師前々は藥種料本道壹人ニ付金五拾兩外科眼科壹人ニ付金廿兩宛被下置本道四人外科四人眼科壹人ニ而相勤候處享保十八丑年より本道貳人外科貳人眼科壹人ニ被仰付藥種料被下候儀相止ミ爲御役料本道壹人ニ百俵宛外科眼科壹人ニ六拾俵宛被下置候其以後増御役料相願候得共取上不申然共右之通御醫師人數も減少仕取續兼可申候